

平成23年度宮古群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

4月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	50	20

(平成23年3月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	22.3	25.1	20.1	174.8	133.4

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

4月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

カンショコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は5.6頭(前年122.1頭、平年40.6頭)と平年よりやや少なかった。
- b 2～3月の気温に基づき、3月21日時点での防除適期は、2月以降の気温が低かったことから、平年より宮古島で4日、多良間島で6日程度遅いと予想される。
- c この時期に茎当たり虫数が15頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
- d 薬剤防除の際は周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう、風向きに注意する。

防除適期予想日(3月21日現在)

地域別	防 除 適 期	2.5齢期予想日		
		本年	平年	平年差
宮古島	4月9日～4月23日	4月16日	4月12日	4日遅い
多良間島	4月7日～4月21日	4月14日	4月8日	6日遅い

平年値は、過去10年間の日平均気温の平均値より算出。

2 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、一部園地で発生がみられた。
- b 本病の病原菌は花穂や葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 結実期以降は、治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0.6頭、平年0.4頭)であった。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は2.3頭(前年0.2頭)であった。
- b 今後気温の上昇に伴い増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

3 かぼちゃ

モザイク病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、一部圃場で多発生がみられた。
- b 着果前の発病株は、抜き取って圃場外に持ち出し処分する。また健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の後に行う。
- c 媒介虫であるアブラムシ類の防除を徹底する。
- d 本病の感染源およびアブラムシ類の発生源となる圃場内外の雑草を除去する。

うどんこ病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、発病葉率は86.0%(前月74.0%)、発病度は26.5(前月25.7)であった。
- b 株元の老葉を除去し、透光通風をよくする。
- c 防除を徹底し、収穫時までできるだけ多くの健全葉を確保する。

4 とうがん(施設)

ミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.8頭)で、つる先当たりの成虫数は0.3頭(前年13.8頭)であった。
- b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
- c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

5 にがうり(施設)

うどんこ病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、発病葉率は5.3%(前年17.0%)、発病度は1.3(前年4.8)であった。
- b 被害葉は除去し、生育に応じて老葉などを摘葉して、透光通風をよくする。
- c 多発すると防除が困難になるので、早期防除に努める。

ミナミキイロアザミウマの防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満(前年0.1頭)であった。
- b 発生源となる老葉や圃場内外の雑草を除去する。
- c 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。